

令和3年度第1回 審議会議事録

日 時：2022年3月25日 14:00～15:30

場 所：摂津市環境センター 新館3階 見学者室

参加者：審議会委員：尾崎会長、大下副会長、小泉委員、山口委員、前川委員、島内委員、
月光委員、阪本（剛）委員

事務局：安田参事、垣本課長代理、三浦環境センター長

資 料：① 第1回審議会議事次第

② 令和3年度摂津市廃棄物減量等推進審議会第1回審議会資料

③ 摂津市一般廃棄物処理実施計画

【議事1：一般廃棄物処理基本計画令和2年度振り返りについて】

事務局より説明。

【質疑応答】

- 副会長：家庭系が微増、事業系は減ということであるが、細かい内訳はあるか。

事務局：内訳はないが、事業系は事業活動の停止などが影響したと考えている。家庭系は自粛によって自宅での生活が増え、家庭から排出されるごみが増えたことが要因と考えている。資料にはないが、資源の缶についても、容器包装リサイクル協会の担当から全国的にコロナの影響で量が増えていると聞いている。

副会長：未利用食材直接廃棄量はどのように算出しているのか。

事務局：毎年5月に行っている組成調査での割合をごみの総量にかけて算出している。

- 副会長：組成調査はごみピットから取ったものか、パッカー車か。

事務局：パッカー車1台分で調査している。

副会長：事業系も調査しているのであれば、何が増えているのかなど見えてくるのではないか。

事務局：そのとおりで、経年で見えていくことにより、取組の成果が見えてくるものと考えている。

- 会 長：水道や下水道でもコロナの影響で事業者の量が減っている。また、月別やコロナの前後での比較することにより、コロナの影響がより分かるのではないかと思うので確認してはどうか。

事務局：分かりました。

- 会 長：フードドライブはどのようにしているのか。

事務局：市内公共施設などで受けつけ、社協で集約し、市のこども食堂や福祉施設に配布。余った場合は、フードバンク OSAKA に提供している。スタートは令和元年度で、周知方法は広報誌やHPのほか、学校でのチラシの配布や自治会回覧などとなっている。また、会場や回数を増やすなど取り組んでいる。

- 会 長：市民意識の高揚で他にはどのような取り組みをしているか。

事務局：コロナの影響でイベントなどはできず、水切りなどの啓発について、推進員への減量化の取組に関するお知らせの配布や自治会回覧を実施した。

- 委 員：レジ袋削減を最終 50%にすることを目標にしている、資料では 80%を低いとしているが。

事務局：資料の 80%はマイバッグの持参率となっている。

委 員：マイバッグ持参率の増減がレジ袋廃棄量には直接は結び付かないと思うがどうか。

事務局：直接は結び付かないため、組成調査で把握する必要があると考えている。

【議事 2：広域化に伴う分別見直しについて】

事務局より説明。

【質疑応答】

- 副会長：プラスチック使用製品についての話があったが、広域化のタイミングで分別収集するのがいいタイミングだったと思うが。

事務局：国の審議会などを見ている、数年かけて制度設計を示していく形となっているため、注視していくが、どこかのタイミングではする必要があると考えている。

副会長：プラスチック使用製品を分別収集すると、溶融能力が下がるため、茨木市の今後の考えを含め、セットで考えていく必要がある。

- 会 長：R5 年度に分別を見直して、すぐにプラの分別開始となると市民が混乱するのでは。

事務局：年数を開けずに再度変更は考えていない。保管施設整備や民間事業者との調整も必要となるため、状況を見ながら次のステップとして検討していくことを考えている。

会 長：プラを見据えて、今の分別のまま広域化するのはどうなのか。

事務局：処分の観点から整理が必要と考えていることと、市民ニーズも絡めて検討し、この形とした。

- 会 長：茨木市は粗大ごみがあるが。

事務局：摂津市はもやせないごみの週の後半で大型ごみも出せるようになっている。

会 長：違う分別で茨木市への搬入は問題ないのか。

事務局：収集品目の違いであって、問題はない。

- 会 長：集団回収を実施しており、段ボールなどの回数が増えるとそちらに流れて集団回収の協力金に影響が出たりしないか。

事務局：試算はしていないが、基本は集団回収を活用してもらうことを推進していく。それに加えて、回数を増やすことで、もやせるごみに出されていた資源物を適正排出に結び付け、減量化にもつなげたいと考えている。

- 委 員：HP や広報誌だけでは見る人が限られている。また、水銀使用製品の収集が始まった時にかごの用意がなく、割れた時に有害物質が散らばる危険性があると思うがどうか。

事務局：ご指摘のとおりだが、その他の手法として Line や収集車で案内も活用している。それに加えて、様々な手法を検討していく必要があると考えている。水銀使用製品については、専用のかごは用意していないが、別日の回収となる資源かごや購入時の箱を使って飛散防止していただくよう伝えている。

会 長：周知については、イベントを活用して啓発し、意識を高めるきっかけを作っていくことが大事である。

- 委 員：資源の持ち去りについてどう考えているのか。また、高齢になり、ごみの排出が難しく

なった場合どのような対応があるか。

会 長：持ち去り条例はあるか。

事務局：現状ない。

会 長：条例があると一定の抑止力にはなるがどう考えているか。また、ごみ出し支援についてどうか。

事務局：持ち去りについては、本市もパトロールは実施しているが、いちごっこで難しい面があると考えており、簡単には解決できない問題だと考えている。ごみ出し支援については、障害や介護が必要な方など一人で排出が困難な人のごみを収集するふれあい収集を実施しており、安否確認を兼ねた取り組みとしている。

- 委 員：特別ごみや複雑ごみなど提案されたが、抽象的で分かりにくさも感じるため、もう一度名称の検討をお願いしたい。

事務局：分かりました。

- 会 長：ごみの辞典などはあるか。

事務局：HP 上であいうえお順の辞典を公表している。また、他市ではごみアプリなどを導入しており、今後検討したいと考えている。

- 委 員：ガイドブックを作成するとのことであるが、今のチラシなど発行日がなく、どれが最新の情報が分からないため、分かるようにしていただきたい。

事務局：分かりました。

【その他連絡事項について】

- 事務局より 2 年間のお礼